

注意点1



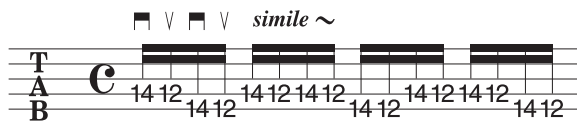
理論

“ナニコレ～”という言葉 当てはめてプレイしよう!

このメイン・フレーズは、ザック・ワイルド風のフル・ピッキング・フレーズだ。1～3小節目は16分音符で“4音・6音・6音”という区切りになっていて、著者は“ナニコレ・ナニナニコレ・ナニナニコレ”という言葉当てはめてリズムを取っている(“6音・6音・4音”という風に区切っても問題はない)。ただし、カウントは各拍子(4分音符)ごとに取るので注意してほしい(図1)。実際の演奏時は、右手がP.58のウェブ対応の詳細解説に記したマシンガン・ピッキングになるので、両隣の弦に触れるぐらい豪快に振ること。さらに低音弦にブリッジ・ミュートを掛ける【註】と、よりザック風の雰囲気が生み出せるだろう。右手を的確にコントロールして、力強さと疾走感が両立したプレイを目指すべし!

図1 “ナニコレ”フレーズのリズム内容

・メイン・フレーズ1小節目



ナニコレ ナニナニコレ ナニナニコレ
薬人 薬人 薬人 薬人 薬人 薬人 薬人 薬人
4音区切り 6音区切り 6音区切り

カウントは4分音符のタイミングで取ろう。

注意点2



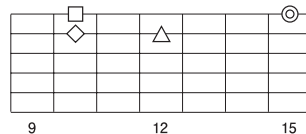
左手

トライアドに9th音を加えた ペンタ風ポジション

このメイン・フレーズは、すべてペンタのように見えるが、実は4小節目のみコード・トーン・フレーズになっている。ここではトライアドに9th音を加えることで、ペンタのようなポジションに変化させているのだ(図2)。これはコード・トーンの発展型になるので、ぜひ覚えてもらいたい。ただし、左手がワイド・ストレッチになるので、演奏時には注意が必要だ。また2～3拍目では、人差し指と小指を軸にして、素早く正確にポジション移動しよう。3拍目1音目の小指による1弦17フレットの押弦時には、人差し指を1弦12フレット上に待機させておくと、スムーズなフィンガリングになる。先を見越した移動を心掛けてみてほしい。

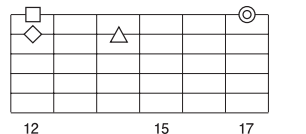
図2 ペンタ風コード・トーン・フレーズ

・Gコード(4小節目1&2拍目)



◎ルート音=G音
△3rd音=B音
□5th音=D音
◇9th音=A音

・Aコード(4小節目3&4拍目)



◎ルート音=A音
△3rd音=C#音
□5th音=E音
◇9th音=B音

トライアドに9th音を加えることで、
ワイド・ストレッチのペンタ風ポジションになる。

～コラム16～

教官の戯れ言

80年代後半の速弾き全盛期、誰もがイングヴェイに憧れてクラシカル・フレーズを超速で弾こうとしていた中、ザックはペンタをとにかく速く弾くという男気全開のスタイルで登場した。これは本当に衝撃的だったね。サザン・ロックやカントリーをルーツに置きながら、ピッキング・ハーモニクスを多用したり、強烈なビブラートを聴かせる豪快なプレイは、著者にも大きな影響を与えたのだ。まあ、このスタイルは、著者が好きなジョン・サイクスと共通する部分が多いのでスナナリ入ってきたわけなのだが。近年のBLSでの超重低音プレイも、彼らしくて凄まじいね。

著者・小林信一、かく語りき ザック・ワイルド編



オジー・オズボーン
『ノーレスト・フォー・ザ・ウィケッド』

1988年に発表された7枚目。豪快なピッキングや強烈なピッキング・ハーモニクスなどで、ザックの名をシーンに轟かせた1枚。



ブラック・レーベル・ソサエティ
『ソニック・ブリュー』

ザックがリーダーを務めるBLSのデビュー作。極端なロー・チューニングを駆使した、極悪ヘヴィ・サウンドは狂気のひと言だ!

【低音弦にブリッジ・ミュートを掛ける】マシンガン・ピッキングは、6弦から3弦に向けて徐々にブリッジ・ミュートを緩めて、1&2弦をノン・ミュートで弾くと良い。こうすることで、サウンドにダイナミクスを付けられるのだ。